

平成14年7月31日

問い合わせ先
統計部経済統計課生計調査係
電話 内線 25-661、671～2 直通 03-5388-2555～6
E-mail : S0000032@section.metro.tokyo.jp

「 都 民 の く ら し む き 」

平成13年東京都生計分析調査報告（確報）の要約

1 世帯の動向

- 〔全世帯〕 消費支出は2年ぶりに減少した。
〔勤労者世帯〕 実収入・可処分所得ともに減少した。
〔無職世帯〕 消費支出が可処分所得を上回り、預金取り崩しなどで補っている。

2 年代別の支出の状況（勤労者世帯と無職高齢者世帯）

〔勤労者世帯〕

30歳未満の世帯：家賃負担	収入：346,348円	支出：275,536円
---------------	-------------	-------------

家賃地代が収入の18.2%となり、家賃負担が家計全般に影響を与えている。

30代の世帯：土地家屋購入	収入：505,941円	支出：373,307円
---------------	-------------	-------------

土地家屋購入について中心的な年代で、住宅ローンについても本格的な返済が始まる。

40代の世帯：教育・住宅ローン	収入：624,296円	支出：445,401円
-----------------	-------------	-------------

教育に関する支出は際立って大きく、住宅ローン負担額は全世代の中で最も多い。

50代の世帯：比較的余裕	収入：601,457円	支出：424,234円
--------------	-------------	-------------

住宅ローンの負担が減少し、嗜好的で選択的な品目の支出が大きく、余裕がみられる。

60歳以上の世帯：リフォーム	収入：351,444円	支出：361,006円
----------------	-------------	-------------

住宅の修繕、リフォームへの支出が大きくなっている。食料などの消費支出は減少している。

〔無職世帯〕

高齢者世帯：質の高い消費	収入：—円	支出：269,277円
--------------	-------	-------------

年金が生活の基礎となっている世帯で、消費全般で支出が少なくなっているが、比較的質の高い消費生活をしている。保健医療は、全世代の中で最も大きくなっている。

注) 勤労者世帯と無職高齢者世帯の1世帯当たり年平均1か月の収入と支出

収入：勤め先世帯主収入 支出：世帯の生計支出

